

科目名	日本文化論			科目コード	SC114	
英 文 名	Japanese Culture			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講は、日本文化の歴史と事例を概観し、主に社会学、人類学、民俗学等の視点から解説を試みることで、「日本文化」に関する総体的な理解を深めることを目的とする。					
授業の狙い・ 到達目標	[到達目標①] 日本文化の固有性について、講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] 日本文化の複層性について、具体的な事例を用いて説明することができる。 [到達目標③] 自文化と異文化との比較の中で、日本の文化と社会を相対化することができる。					
授業内容の レベル・関連科目	身近な日本の文化や社会に関心を持ち、自己の意見をまとめておくこと。日本の歴史、社会、文化等に関する関連科目を併せて学習することが望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	[事前学習] 各回の講義テーマに自己の関心を結びつけながら、日本文化の多様な事例と日常の社会的経験を整理しておくこと。 [事後学習] 講義で学んだ事項を振り返り、体系化して理解の深化に努めること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	・中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社(2019) ・和智正喜『ウルトラマンの愛した日本』宝島社新書(2013) ・船曳建夫『柳田国男』筑摩書房(2000)					
課題に対する フィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②] (50%), ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー[到達目標③] (30%), ・講義への参加状況(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	日本の文化や社会に関する理解を通して、自己を見つめなおし、豊かな生活と適切な社会の結びつきについて、ともに考えていくことが期待されます。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org), またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー日本文化の古層を探るー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	日本文化の古層ー神話的世界観ー 「古事記」「日本書紀」などの日本神話をあらかじめ概観しておくこと。 日本社会の形成に神話が果たした役割と歴史について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	年中行事と信仰・伝承 日本各地に看取される伝統的な年中行事を1つ以上調べておくこと。 年中行事の意味について振り返り、その文化的体系性について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	通過儀礼 日本各地に看取される通過儀礼の事例について1つ以上調べておくこと。 通過儀礼の構造について振り返り、人間の成長に伴う各儀礼について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	伝統的家族観と祖先祭祀 日本における「イエ」制度や家族の類型について調べておくこと。 日本の伝統的家族観とその変化について振り返り、家族の現代的課題について理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	食文化とタブー 日本人が「食べてよいもの」と「食べていけないもの」をそれぞれ1つ以上調べておくこと。 日本の食文化について振り返り、その歴史と構造について理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	分類の文化史 時間、空間、色彩、音などの領域において日本に固有な分類体系を1つ以上調べておくこと 講義を振り返り、日本における自然事象の分類の体系について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	呪術、占術、予言 陰陽師に代表される日本文化における「呪術(witchcraft)」の事例を1つ以上調べておくこと。 日本における呪術や予言の歴史的特性について振り返りその社会的意義について理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	日本人論の古典「タテ社会の人間関係」と「甘えの構造」 講義で解説する2冊の日本人論について、事前に概観しておくこと それぞれの「日本人論」の特徴を概括し、現代の日本社会の特性について理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	小泉八雲「怪談」 小泉八雲の生涯を概観し、あらかじめ配布するテキストから1作品以上を通読しておくこと 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)のアイデンティティと日本文化の古層について理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	世界遺産と日本文化 世界遺産条約の概要を確認し、日本における世界遺産の事例を1つ以上調べておくこと。 世界遺産条約の現状と課題を振り返り国際社会における日本文化の評価について理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	日本のサブカルチャー 社会経済的に大きな影響力を持つ日本のサブカルチャーの事例を1つ以上調べておくこと。 講義を振り返り、日本経済におけるサブカルチャーの意義と課題について理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	日本文化の多様性ー北海道と沖縄ー 北海道と沖縄の文化的事象について1つ以上調べておくこと。 日本の歴史と地域性を理解を通して、日本文化の多様性について理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	世界の中の日本文化 日本の中の世界文化 世界の中の日本文化と日本の中の世界文化をそれぞれ1つ以上調べておくこと 講義を振り返り、グローバル化に伴う日本文化の拡張と変容について理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー拡張する日本文化ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科 目 名	日本語学概論Ⅱ			科目コード	SC110	
英 文 名	Outline of Japanese Linguistics Ⅱ			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日常的な言語現象を観察し、なぜそのような使い方や言い方になるのか、そこにどのような規則があるのかについて学生自身が考え、日本語の言語学的特徴について学んでいく。主に助詞や文の組み立て、時制、モダリティといった、日本語学の基礎的な文法を扱う。					
授業の狙い・ 到達目標	日本語を「外国語」として客観的に捉えられるようになる。日常で何気なく使っている日本語からその言語的特徴を見出し理解することで、日本語について外国人にも分かりやすく説明できるような知識を身に付けることができる。また、普段から見聞きする言葉に意識を向け、疑問を持ったり答えを導き出したりする思考力を身につけることができる。					
授業内容の レベル・関連科目	留学生は日本語文法の知識が必要 関連科目：日本語学概論Ⅰ					
授業外学習 (予習・復習)	予習)教員が指示する次回テーマに関する課題 復習)授業場内容に関する復習課題。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が準備したプリントを使用。					
参考書・ その他教材	『日本語要説改訂版』ひつじ書房 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版 庵功雄『新しい日本語入門第2版』スリーエーネットワーク					
課題に対する フィードバック	宿題の復習課題を全員で確認し、簡単な復習テストを行う。					
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出等30%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	torita@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 「日本語学」とは？「は」と「が」① シラバスをよく読んでおく 教員が提示した復習課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	「は」と「が」② 格助詞 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
3 回	学習内容 予習 復習	自動詞・他動詞 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
4 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス①受動態 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
5 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス②可能態 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
6 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス③使役態 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	時制①テンス 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	時制②アスペクト 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	モダリティ① 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	モダリティ② 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	とりたて 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	指示詞 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行
13 回	学習内容 予習 復習	授受① 教員が提示した次回内容に関する課題を行う 教員が提示した復習課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	授受② 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	これまでのまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科 目 名	日本社会史			科目コード	SC105	
英 文 名	Social History of Japan			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日/2時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	政治史・外交史の分野で日本の近現代を学ぶ日本史学概論(史学概論)に対して、本講義では社会経済史として、日本の近現代史を学ぶ。					
授業の狙い・ 到達目標	前半では、プレモダンとしての江戸時代から講義を始め、明治時代を中心に日本の近代化を概説する。後半の戦後社会では、現代社会の様々な問題の起源を探る形で、テーマ別に戦後史を概説する。そのような学修を通じて、歴史的に形成されてきた現代を理解できるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	日本理解・専門科目であり、若干、発展的な内容を含む。日本史学概論(史学概論)や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)をあわせて受講することで、理解が深まるものと考ええる。					
授業外学習 (予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、日本史学概論、歴史と現代が、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・ その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対する フィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	江戸時代①、近代的発展の基礎が築かれた時代として、江戸時代を捉え直す。 Pre-Modernとしての江戸時代とはどういうことか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	江戸時代②、開国に至る流れを概説し、明治期の国際化を学ぶ基礎を概説する。 開国から幕末の騒乱の時期について、社会・経済の視点から、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	明治時代①、開国と国際化・近代化を概説し、明治維新の社会経済的意義を理解する。 開国後の混乱、社会の変容について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	明治時代②、殖産興業をキーワードに、明治前期の社会経済史を概説する。 富岡製糸場など、殖産興業の時代を代表する工場等について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	明治時代③、明治時代を中心に、戦前の産業・交通の発展を概説する。 第4～5回のレジュメを見返すとともに、参考資料から発展的復習をしておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	大正時代、都市化と交通の発展、関東大震災とその影響、植民地統治などを概説する。 大正時代の都市生活と社会・文化について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	戦後史①、戦後復興史の概説。第10回以降の講義の基礎となる概説を行う。 戦後史の基本的な流れを、自分なりに学習してみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	戦後史②、過疎化・過密化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 戦後日本の人口移動について、東京圏を中心に学習してみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	戦後史③、都市化と公害をテーマに、戦後社会の課題を解説する。 四大公害病について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	戦後史④、戦後日本の災害(水害、震災)をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 戦後の主要な災害について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	戦後史⑤、少子高齢化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 少子高齢化の何が問題か、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	戦後史⑥、国際化・グローバル化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 日本社会が、現在どれほどグローバル化しているか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	歴史と現代			科目コード	SC106	
英 文 名	History and Contemporary Society			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日/2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日本社会史(歴史と現代Ⅰ)が、江戸時代からの社会経済史を通史的に概説したのに対して、本講義では地域史として、現代社会につながる「歴史」を概説する。					
授業の狙い・到達目標	地域には様々な歴史の刻印がある。そうした歴史の刻印を掘り起こし、現代社会に生きる私たちが歴史を学ぶ意義を実感できる講義を目指す。そのような学修を通じ、日本社会の多様性、社会の重層的な発展に気が付けるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	日本理解専攻の専門科目であり、少し発展的な内容を含む。日本史学概論(史学概論)や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、日本社会史(歴史と現代Ⅰ)をあわせて受講することで、理解が深まるものと考え。					
授業外学習(予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、史学概論、歴史と現代が、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション, 講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しするとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代①】北総地域の発展史を成田を中心に概説する。 「加曽利貝塚博物館・特別史跡加曽利貝塚」(Youtube)は, おすすめ。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代②】北総地域の発展史を四街道・佐倉を中心に概説する。 大学正門前の碑に書かれている文字を読んでみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	【江戸／東京の歴史と現代】家康入府以来の江戸(東京)の歴史を概説する。 東京の発展は災害と不即不離の関係にある。明暦の大火や関東大震災について, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	【京都の歴史と現代】世界遺産「古都・京都の文化財」を中心に, その歴史を概説する。 世界遺産を構成する, 古都・京都の文化財について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	【大阪の歴史と現代】古代の難波津の時代から, 商都・大阪の発展史を概説する。 大阪城築城以降の大阪の歴史について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	【神戸の歴史と現代】大輪田泊から近代神戸, そして阪神大震災までを概説する。 阪神大震災が現代社会に与えた影響について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	【横浜の歴史と現代】幕末の開港から, 国際都市・横浜の150年を概説する。 横浜も関東大震災の影響は大きかった。関東大震災について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	【長崎の歴史と現代】「鎖国」下で, 4つの口の1つだった長崎の歴史を概説する。 長崎の近代では, 原爆投下の影響も取り上げる。これにつき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	【広島県の歴史と現代】近代広島の発展を, 「軍都・広島」の視点を中心に, 概説する。 近代以前の広島では, 厳島神社を取り上げる。自分なりに, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	【福島県の歴史と現代】戊辰戦争, 安積疎水, 福島第一原発などについて, 概説する。 常磐炭鉱や福島第一原発事故などについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	【沖縄の歴史と現代】琉球王国の時代から, 沖縄戦・米軍占領までの歴史を概説する。 琉球王国の時代や沖縄戦について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	【北海道の歴史と現代】「蝦夷地」と呼ばれた時代から, 現在までの歴史を概説する。 アイヌ民族と日本人の交流などについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科 目 名	現代日本事情Ⅱ				科目コード	SC109	
英 文 名	Contemporary Japan Ⅱ				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日/3時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に興味のあるものを1つ選び、より深く掘り下げ、個人発表を行う。						
授業の狙い・ 到達目標	時事問題や生活文化に関する知識と理解を深め、自ら問題提起をして解決策を考える力をつける。また、自身の意見を簡潔にまとめ相手に伝える能力を身につけることができる。						
授業内容の レベル・関連科目	関連科目:現代日本事情Ⅰ						
授業外学習 (予習・復習)	予習)次週の資料を前もって読み、理解しておく。 復習)扱ったテーマについて自身で調べまとめる。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員、担当学生が用意した資料を使用						
参考書・ その他教材	都度講義内で指定する。						
課題に対する フィードバック	毎回の作文課題の修正点を確認し、重要な点は授業で共有する。						
成績評価方法	個人発表40%、毎週の作文課題40%、平常点20%						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	普段から様々な時事ニュースや身近な出来事に関心を持ち、それらについて考える習慣をつけてほしい。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	torita@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 時事問題(1) 社会生活の問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する 教員の提示した課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	時事問題(2) 社会生活の問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
3 回	学習内容 予習 復習	時事問題(3) 社会生活の問題③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
4 回	学習内容 予習 復習	時事問題(4) 社会生活の問題④ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
5 回	学習内容 予習 復習	時事問題(5) 国際社会と日本① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
6 回	学習内容 予習 復習	時事問題(6) 国際社会と日本② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
7 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(1) 日本の行事と習慣① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
8 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(2) 日本の行事と習慣② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
9 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(3) 国際社会と日本人① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
10 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(4) 国際社会と日本人② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
11 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(5) 国際社会と日本人③ 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
12 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(1) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(2) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	学生の個人発表(3) 発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	発表を終えての反省とまとめと授業全体のまとめ 授業で扱ったプリント等を再読し、自身で振り返りを行う 特になし

科目名	東洋文化論			科目コード	SC115	
英 文 名	Oriental Culture			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	東洋が西洋からどのようにイメージされ、記述されてきたか、文化の表象という問題を考える。そのうえで、東洋的な精神や文化的様相について議論する。					
授業の狙い・ 到達目標	「オリエント(東洋)」というイメージがどのように作られてきたかについて、文献や資料を通して、植民地時代の状況をふまえて理解を深められるようになる。また、履修生の出身国・出身地域の文化がどのように表現されているかについて、客観的に考えることができるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	新聞の国際欄、文化欄などが読めると望ましい。また、英語の資料もとりあげるので、英語の読解力も必要とする。(関連科目)文化人類学					
授業外学習 (予習・復習)	各回の授業の冒頭に小テストを行うので、授業で配布された資料や教員の講義を振り返り、理解を深めておくこと。また、簡単な課題を出す場合もあるので、教員の指示に従って提出すること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。					
参考書・ その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。					
課題に対する フィードバック	前週の授業の復習を兼ねて小テストを添削しコメントをする。					
成績評価方法	授業への積極的な参加(30%)、小テスト(30%)、レポート(40%)で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	普段から自文化や異文化に関心を抱き、東洋と西洋という分け方について自分なりの意見をもっておくこと。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	西洋と東洋という分け方について批判的に考える。 西洋、東洋のイメージについて考えてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
3 回	学習内容 予習 復習	芸術作品を通して西洋からみた東洋について考える。 事前に配布した資料に目を通し、芸術作品の印象をまとめてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
4 回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』(梅棹忠夫著)を読む①西洋と東洋という分け方の問題点について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』(梅棹忠夫著)を読む②アジアの中の日本という捉え方について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第2回から第5回までの資料を読み返しておくこと。 授業で指示された課題の内容にとりくみ提出すること。
7 回	学習内容 予習 復習	文化を書くことの問題点について人類学の視点から考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	表象とは何かについて概説する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	アジアにおける植民地統治について概観する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	探検記を読み、植民地時代のインドシナについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	東南アジアの植民地統治に関する論文を読む。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	植民地博覧会を例に、表象の問題点を考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	近代国家の形成過程で国民がどのように創られてきたかについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	観光における民族や文化の表象について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	日本とアジア			科目コード	SA103	
英 文 名	Japan and Asia			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本の歴史と対外関係史として学ぶ。日本と国際社会が、対アジア、対欧米を含み、地誌学的視点も含めて幅広い学修になるのに対し、本講義では対アジアと特化、歴史を基本とした。					
授業の狙い・ 到達目標	現代社会に生きる我々の立ち位置を的確に把握するうえで、歴史の学修は重要である。本講義では、日本にとって重要な対外関係であるアジア(対中、対韓)、欧米(対米、対欧)などを幅広く学び、日本の対外関係の歴史の基礎が理解できるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	日本の歴史は、いかにアジアをはじめとする外交関係に大きな影響を受けてきたか。それを実感できる講義を展開したい。おそらく、政治史である日本史学概論が一番関連が深い。					
授業外学習 (予習・復習)	高校までの教科書でいうと、「日本史B」と同じ範囲である。その復習が講義をスムーズに理解するうえで有用である。また、講義レジュメの参照資料URLをたどってみると、発展的な復習になる。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・ その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対する フィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション, 講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	志賀島・金印から, 魏志倭人伝まで。対中関係を中心に5世紀まで。 魏志倭人伝と卑弥呼・邪馬台国につき, 現在の知見を自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	仏教の伝来と遣隋使・遣唐使の意義。5世紀までの朝鮮半島, 中国との関係史を概説する。 遣隋使や遣唐使の派遣によって, 日本が得ようとしたもの, そして実際に得たものを調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	白村江の戦いとその影響を中心に, 7～8世紀の日本社会の「動揺」について概説する。 7世紀後半, 古代律令国家の建設期にいかに対外関係が大きな影響を与えているか, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	遣唐使廃止と国風文化, 11世紀の日宋貿易, そして元寇に至る流れを概説する。 国風文化の時代の代表的世界遺産・平等院鳳凰堂について, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	14世紀の東アジア国家再編と倭寇・勘合貿易, 16世紀の朱印船貿易に至る流れを概説する。 前期倭寇と後期倭寇の違いについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	江戸時代と「4つの口」。鎖国下における外交関係として, アジアとの交流を学ぶ。 4つの口とは何か, 自分で調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	日清戦争前夜。19世紀後半の日中・日韓関係を学ぶ。 中世の冊封体制が, 近代になっていかに変容したか, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	韓国併合(日韓併合)に至る, 19世紀から20世紀前半の対韓関係を学ぶ。 日清戦争と日露戦争の繋がり, 日露戦争と日韓兵卒の繋がりについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	満洲事変・日中戦争, 20世紀中盤の日中戦争を戦史として学ぶ。 満洲事変から日中戦争, 日中戦争から北部・南部仏印侵攻に至る歴史を, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	太平洋戦争の背景とその流れについて概説する。 日中戦争から北部・南部仏印侵攻, 真珠湾攻撃に至る歴史を, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	戦後日本とアジア外交。戦後のアジア外交を, 政治・経済双方の視点から学ぶ。 アジア太平洋戦争の「戦後処理」について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	グローバル化と日本・アジア, 今日のアジア諸国との交流を考える。 アジアのなかの日本／アジアと日本という視点から, 現代社会を考えてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科目名	日本と国際社会			科目コード	SA102	
英 文 名	Japan and International Society			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/1時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本と世界の関わりを、地域別に学ぶ講義である。取り上げる国は、いずれも日本と関わりの深い主要国であり、その地誌、歴史(対日関係)を学ぶ講義となる。					
授業の狙い・ 到達目標	国際化のなかで、日本の立ち位置・ありようを学ぶことができる講義にしたい。グローバル化が深化する現代社会を生きるにあたり、必須の知識を身に着けることが目標となる。歴史を扱う日本とアジアに対し、「地誌」的に世界を理解できるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	世界の主要国につつき、地誌学的な視点を中心に学ぶが、時として歴史的な視点も補足する。20世紀の国際政治・経済が学修できる国際関係論やテーマ別に戦後の国際関係を学べる国際協力学が、関連性が高い。					
授業外学習 (予習・復習)	国際ニュースは本講義にとって、とても重要な関連学習である。いま、世界で何が起きているか、積極的に学んでほしい。同時に、その背景となる歴史を考える姿勢を持ってほしい。それが本講義の狙いでもあり、最も効果的な予習・復習となる。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・ その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対する フィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%, 筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org), またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	【中国】中国社会の現状を概説し、そのうえで戦後の日中関係を学ぶ。 日清戦争や北清事変について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	【朝鮮半島】朝鮮半島の現状を概説し、そのうえで戦後の日韓・日朝関係を学ぶ。 独立後の朝鮮半島と日本の関係につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア①】タイ、ベトナムなどインドシナ地域の現状と対日関係を概説する。 在留ベトナム人が、いつから増えたのか。自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア②】マレーシア、インドネシアの現状と対日関係を概説する。 プラザ合意やODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア③】フィリピン、カンボジアの現状と対日関係を概説する。 プラザ合意やODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	【南アジア】インド、アフガニスタンの現状と対日関係を概説する。 四街道市になぜアフガニスタン人が多いか、自分でも調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	【西アジア】中東地域とのかかわりを、石油を中心に学ぶ。 第1次オイルショック(1973)について、その原因・意義(影響)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ(日本とアジア)。中間テスト形式で、第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	【米国】米国の現状と対日関係を概説する。 BMS運動の背景について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	【中南米】ブラジルを中心に、南米の現状と対日関係を概説する。 日系ブラジル人、ペルー人について、自分なりに、その原因や実態を調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	【ヨーロッパ】イギリス、ドイツ、EUを中心に、欧州諸国の現状と対日関係を概説する。 EUの歴史、イギリスのEU脱退について、その背景・意義などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	【ロシア】ロシアの現状と対日関係を概説する。 北方領土問題について、日ソ共同宣言(1956)以来の歴史を調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	【アフリカ】アフリカの現状と対日関係を概説する。 アパルトヘイト、南アフリカ共和国について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ(日本と欧米)。中間テスト形式で、第10回～第14回までの講義をおさらいする。 第10回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科 目 名	国際関係論				科目コード	SC104	
英 文 名	International Studies				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日/2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する		☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	20世紀, とりわけ戦後の国際関係を政治・経済両分野で的確に理解することをも目的とする。その時, 歴史の流れを正確に理解することを重点目標とする。						
授業の狙い・到達目標	国際政治では, 第1次世界大戦時の国際連盟に遡って国連の成り立ちや役割等を講義する。経済面では, ブレトンウッズ体制の形成から変容の過程を米国, アジアを中心に講義する。国際政治・経済の側面から, 国際関係論の基礎を理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	これからのグローバル社会に生きるうえで, 不可欠な知識を教授するもので, 基礎レベルである。「国際協力学」が関連科目で, 併せて受講すると理解に幅と深みが出る。						
授業外学習(予習・復習)	講義では, 重要事項をビジュアルで紹介していく。そのURLをたどって当該ページを閲覧することは, 発展的な復習として, 理解を深めるのに効果的である。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し, 教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ, 講義レジュメに引用した資料などは, できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは, その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15%, 筆記試験85%(中間テスト(20%)含む)						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを, 本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に, 小テストの復習は入念に。 講義とはいえ, 「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org), またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に, 直接聞くことも可。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要やテストの方法などを説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	国際政治①、第1次世界大戦から、国際連盟が誕生する(1920)までの歴史を概説する。 第1次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	国際政治②、第2次世界大戦の原因と経緯。ヨーロッパ、アジアを中心に概説する。 第2回講義を復習したうえで、第2次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	国際政治③、第3回講義を踏まえて、国連の仕組みや主要機関を概説する。 第2回、3回講義を復習し、2度の世界大戦の原因を把握しておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	国際政治④、ロシア革命とソ連の成立、冷戦の始まりと展開の基本を概説する。 社会主義国について、その特徴と問題点を自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑤、冷戦下で4つの国が分断国家となった。その歴史的展開を概説する。 4つの分断国家(ドイツ、ベトナム、朝鮮半島、中国)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑥、冷戦崩壊後の国際情勢を、なおも続く国際紛争・テロを中心に概説する。 湾岸戦争、9.11テロ、イラク戦争などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑦、前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	国際経済①、第2次世界大戦の経済的原因から、ブレトンウッズ体制の意義を理解する。 世界恐慌(1929)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	国際経済②、戦後のアメリカ経済、1970年代のブレトンウッズ体制の変容を概説する。 ベトナム戦争の経済的意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	国際経済③、オイルショックとその影響につき、日米欧を中心に概説する。 オイルショックについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	国際経済④、中国経済の変容。中国経済の発展の経緯や特徴を概説する。 人民公社の時代、改革開放政策について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑤、開発独裁とアジアの経済成長。韓国を中心に概説する。 開発独裁国家の歩みについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑥、プラザ合意(1985)とアジア経済危機(1997)を概説する。 第10回～第13回講義を復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑦、後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	バイリンガル教育論				科目コード	SC111	
英 文 名	Bilingual Education				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	清水 聖子			教員コード	132	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日/1時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	「日本語教師養成サポートプログラム」必須科目。言語理解の過程と言語習得・発達について学ぶ。						
授業の狙い・ 到達目標	日本語を学ぶ学習者の言語理解の過程や言語習得・発達、学習ストラテジーなどを理解することができる。また、学んだ知識は後に学習者の日本語教育における効果的な指導方法ができるようになる。キーワードとして、教育と心理に関わる領域のうち、⑦言語理解の過程(談話理解、言語学習)、⑧言語習得・発達(習得過程(第一言語・第二言語)、⑩学習ストラテジーの内容を講義する。						
授業内容の レベル・関連科目	留学生はJLPTN2相当以上の日本語力が必要。関連科目:「発達心理学」、「認知心理学」						
授業外学習 (予習・復習)	教科書の内容をより深く理解するために、予習として事前に教科書を読んでくこと。意味がわからない語彙や日本語表現などがあったら、調べておくこと。復習として、教科書を読み直すこと。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	奥野由紀子 『超基礎・第二言語習得研究』くろしお出版						
参考書・ その他教材	特になし						
課題に対する フィードバック	各章の終わりに確認小テストをする。翌週授業でフィードバック(答え合わせ)を行う。						
成績評価方法	確認小テスト80%、レポート20%で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	小テストは教科書持ち込みのみ許可する。したがって、教科書をコピーしたプリントを用いて小テストを受ける場合は成績に反映されないなので、注意してください。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to :shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める
2 回	学習内容 予習 復習	第二言語習得(SLA)研究とは 教科書の第1章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
3 回	学習内容 予習 復習	二つの言語習得観と言語移転のとらえ方 教科書の第2章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
4 回	学習内容 予習 復習	「エラー」のとらえ方の変遷 教科書の第3章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
5 回	学習内容 予習 復習	SLAの認知プロセス 教科書の第4章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
6 回	学習内容 予習 復習	個人さがSLAに与える影響 教科書の第5章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
7 回	学習内容 予習 復習	SLAの認知プロセスの環境と特徴 教科書の第6章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
8 回	学習内容 予習 復習	社会とつながるSLA研究 教科書の第7章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
9 回	学習内容 予習 復習	CLD児の言語習得 教科書の第8章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
10 回	学習内容 予習 復習	CLD児への教育と支援 教科書の第9章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
11 回	学習内容 予習 復習	SLA研究に基づく日本語指導(1) 教科書の第10章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
12 回	学習内容 予習 復習	SLA研究に基づく日本語指導(2) 教科書の第11章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
13 回	学習内容 予習 復習	SLAと評価 教科書の第12章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
14 回	学習内容 予習 復習	SLA研究の今、そしてこれから 教科書の第15章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ 教科書を読み返す これまでの授業で取り上げた内容について振り返り、レポートにまとめる

科 目 名	観光学Ⅱ				科目コード	SC101		
英 文 名	Tourism Studies Ⅱ				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	吉元 菜々子			教員コード	165		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態		講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	観光は社会的な現象であり、それ単独では理解できず幅広い社会理解が必要となる。本授業では観光について、それを取り巻くより広い領域との関連で捉えることで、観光とわたしたちの生活世界との関係性を探り、現代社会の理解を深める。							
授業の狙い・ 到達目標	観光と現代社会とのつながりについてさまざまなテーマから探究することを通じて、観光現象を捉えるための多様な視点を獲得し、観光学を包括的かつ体系的に理解できるようになる。							
授業内容の レベル・関連科目	観光学の入門レベルの講義であるが、若干の発展的な内容も含む。「観光学概論(観光学Ⅰ)」の履修を推奨する。							
授業外学習 (予習・復習)	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。							
参考書・ その他教材	大橋昭一ほか編(2014)『観光学ガイドブック——新しい知的領野への旅立ち』ナカニシヤ出版。 西川克之ほか編(2019)『フィールドから読み解く観光文化学——「体験」を「研究」にする16章』ミネルヴァ書房。							
課題に対する フィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。							
成績評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)により評価する。							
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。							
履修上の 注意事項や 学習上の助言	日ごろから観光に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。							
科目に関連した 教員の実務経験	特になし。							
担当教員への 連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。							

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——社会の中の観光、観光の中の社会 シラバスを読み、授業の概要と目的について理解しておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	観光とホスピタリティ 観光における「おもてなし」と家に来客があった際の「おもてなし」の違いについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	観光と宗教 聖地巡礼と観光との違いについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	観光と環境 観光がもたらす環境問題について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	観光と開発 観光地化することによる地域社会への影響にはどのようなものがあるかについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	観光と移動 観光のための移動手段にはどのようなものがあるかについてまとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	観光と文化 これまで、観光において地域の伝統文化に触れた経験があるかどうか考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	観光と家族 家族旅行を計画する上で重視するポイントについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	観光とジェンダー 女性が観光業でどのような業務に従事しているかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	観光と政治 「楽園」としてイメージされる観光地にはどのような場所があるかについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	観光と遊び これまでの自分の観光経験において「楽しさ」を感じた瞬間について考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	観光と民族 世界の先住民族にはどのような人びとがいるかについて調べ、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	観光とグローバリゼーション インターネットで知る情報と実際に現地に足を運んで知る情報との違いについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	観光と食 観光地で食事をする際に重視するポイントについて考え、まとめておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——観光と現代社会 これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 これまでの授業を振り返り、受講内容について理解を深めること。

科 目 名	地域文化と観光				科目コード	SC103	
英 文 名	Tourism and Local Cultures				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	吉元 菜々子		教員コード	165		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	観光は私たちにとってごく身近な娯楽となった一方、それがもたらす弊害——環境破壊、生活環境の悪化、利益の不平等配分、伝統文化の崩壊など——についても指摘されている。本授業では、観光による弊害への反省のもと登場した「持続可能な観光」について、日本や世界の具体的な事例とともに学び、地域コミュニティによる主体的な観光運営の可能性について探る。						
授業の狙い・ 到達目標	観光において地域文化を主体的に発信する住民の人びとの姿を知ることを通じて、弊害が指摘される観光の新たな形と可能性を追求するための知識と姿勢を身につけることができる。						
授業内容の レベル・関連科目	観光学の入門レベルの講義であるが、若干の発展的な内容も含む。「観光学概論(観光学Ⅰ)」、「観光学Ⅱ」の履修を推奨する。						
授業外学習 (予習・復習)	事前に授業計画を確認し、各回のトピックについて自分なりに調べるなどの予習をすること。また復習として、授業後は配布資料や自分で作成したノートをもとに授業内容を振り返ること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。						
参考書・ その他教材	橋本和也(2018)『地域文化観光論——新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版。 橋本和也編(2019)『人をつなげる観光戦略——人づくり・地域づくりの理論と実践』ナカニシヤ出版。						
課題に対する フィードバック	授業内で前回の授業のリアクションペーパーを適宜紹介し、質問への回答やフィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(40%)、レポート(60%)により評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	日ごろから観光に関連するニュースを意識し、調べる習慣をつけること。 授業計画は、受講生の理解度や要望に応じて若干の変更を加える場合がある。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし。						
担当教員への 連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——観光がもたらす諸問題 シラバスを読み、授業の概要と目的について理解をしておくこと 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	大衆観光から「持続可能な観光」へ 観光にはどのような種類があるかについて考え、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	まちづくりと観光開発 「まちづくり」という言葉の意味を調べ、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	地域文化と観光資源 自分の住む街の魅力とは何かについて、外から来る観光客の目線で考え、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	コミュニティ・ベースド・ツーリズム 観光客を呼ぶために必要なプロセスについて考え、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	地域アイデンティティと観光 海外からの観光客に対して日本について説明するとしたらどのようにするか、考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	エコ・ツーリズム 観光客がもたらす環境や自然への悪影響にはどのようなものがあるかについて考えておくこと。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	ヘリテージ・ツーリズム 日本の世界遺産について調べ、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	エスニック・ツーリズム 世界の先住民について調べ、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	グリーン・ツーリズム 「農泊」という言葉の意味について調べ、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	ダーク・ツーリズム 観光地となった戦争や災害の現場にはどのような場所があるかについて調べ、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	ボランティアとツーリズム 旅行会社で販売されているボランティア・ツアーにはどのようなものがあるかを調べ、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	メディカル・ツーリズムとヘルス・ツーリズム 国境を越えて医療を受けるメリットとデメリットについて考え、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	ライフスタイル・ツーリズム 観光と移住との違いについて考え、まとめること。 授業内容を振り返り、学習した内容をまとめて理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——地域と観光の関係性 これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 これまでの授業を振り返り、今後の観光の可能性について自分なりの考えをまとめること

科目名	観光地理学			科目コード	SC102	
英 文 名	Tourism Geography			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日/3時限		授業形態	講義
学位授与方針 との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	観光について、主に地理学の観点から取り上げる。様々な地域の事例から、地域が持つ観光資源や、観光産業によって生じる地域的変化について理解を深める。また、補論として、各回で世界遺産についても学ぶ。					
授業の狙い・ 到達目標	① 観光地理学の基本的な考え方を理解し、観光地域の立地や形成・発展要因、観光による地域の変化について考察できるようになる。 ② 世界遺産の基本的な概念や制度を理解し、代表的な世界遺産について、その歴史的・文化的・自然的価値を説明できる。					
授業内容の レベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。					
授業外学習 (予習・復習)	講義内容から疑問点や関心を探し、自分の知っている地域にも当てはめて考えながら予習・復習をすること。 授業内課題の準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	世界遺産検定事務局(2025)『はじめて学ぶ世界遺産50 <第5版>』マイナビ出版					
参考書・ その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。					
課題に対する フィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。					
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 観光地理学とは何か シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 授業内容と進め方について、確認しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	現代の観光産業と地域① 観光業の歴史について予習をしておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	現代の観光産業と地域② 観光業にどのような特徴や役割があるかを考えておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	世界の観光地 世界にどのような著名な観光地があるか、確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	日本の観光地 行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	都市観光① 東京の観光地に関して、その成り立ちや特徴を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	都市観光② 京都・大阪の観光地に関して、その成り立ちや特徴を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	農村と自然の観光① 農村地域や自然に関する観光地を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	農村と自然の観光② 農村地域や自然に関する観光地を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 フードツーリズム、祭礼文化 観光資源にはどのような種類が存在するか、調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 コンテンツツーリズム サブカルチャーを用いた観光振興について、事例を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 ダークツーリズム ダークツーリズムという用語についてあらかじめ調べ、どのような地域や施設が該当するか考える。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	身近な観光地 千葉県① 千葉県内の行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	身近な観光地 千葉県② 千葉県内の行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。

科 目 名	観光学フィールドワーク				科目コード	SA101	
英 文 名	Fieldwork of Tourism Studies				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	吉元 菜々子			教員コード	165	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	実習	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	観光は具体的な現場において人と人のかかわりの中で生じている現象である以上、統計やパターンによる理解だけでは零れ落ちてしまうものも多い。本授業ではフィールドワークという調査手法を通じて観光現象について考えていくことで、観光に対する先入観を問い直し、自らの経験を通して発見した問いを探究する。						
授業の狙い・ 到達目標	フィールドワークという調査手法について学び、それを実践することを通じて、観光現象を質的に理解し、自らが発見した新たな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養うことができる。						
授業内容の レベル・関連科目	観光学の発展レベルの授業である。「観光学概論(観光学Ⅰ)」、「観光学Ⅱ」の履修を推奨する。						
授業外学習 (予習・復習)	教員の指示に従い、予習・復習を行うこと。また授業での指導をもとに、自身で研究をすすめること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。						
参考書・ その他教材	市野澤潤平ほか編(2021)『観光人類学のフィールドワーク——ツーリズム現場の質的調査入門』ミネルヴァ書房						
課題に対する フィードバック	授業でのディスカッションやプレゼンテーションの際にコメントする。						
成績評価方法	平常点(30%)、プレゼンテーション(30%)、提出課題(40%)により評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	自らで調査を行うため、主体的に学ぶ姿勢が必要である。またフィールドワークでは人とかかわりが必須であるため、礼節をわきまえた行動をすること。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし。						
担当教員への 連絡方法	質問等はメール(yoshimoto@aikoku-u.org)にて受け付ける。						

授業スケジュール

観光学フィールドワーク

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——フィールドワークの特質 シラバスを読み、授業の概要と目的について理解をしておくこと。 授業の目的を理解し、今後の授業計画について確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	事例からみるフィールドワーク 研究のための調査にはどのような手法があるかについて調べ、まとめておくこと。 フィールドワークという調査手法の特徴について整理しておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	写真観察法とは何か 自分が普段どのような時に写真を撮るかについて考え、まとめておくこと。 授業で学んだ内容を整理し、写真観察法の実践方法について確認しておく。
4 回	学習内容 予習 復習	写真観察法の実践——四街道という街を撮る 四街道市について調べ、まとめておくこと。 授業内で撮影した写真を整理すること。
5 回	学習内容 予習 復習	写真観察法によるフィールドワークの成果発表 整理した写真をもとに、発表の準備をしておくこと。 成果発表へのコメントを整理し、今後の研究のためにまとめておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの事前準備と実践方法 自分の興味関心について考え、まとめておくこと。 授業で学んだフィールドワークの注意点について整理しておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	受講者によるフィールドの選定 どこでフィールドワークを実施するかについて考えておくこと。 自身が選んだ調査地について調べ、まとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	文献からフィールドを知る①——資料収集とその分析 自身が選んだ調査地についての文献を調べておくこと。 調べた文献資料を収集すること。
9 回	学習内容 予習 復習	文献からフィールドを知る②——フィールドワークの焦点を絞る 関連する文献資料を読み、内容を整理しておくこと。 授業で学んだ内容を踏まえ、フィールドワークでの調査項目を作成すること。
10 回	学習内容 予習 復習	中間発表——新たな課題の設定 フィールドワークを実施し、その内容をまとめて発表準備をすること。 授業内でのコメントを踏まえ、さらなる調査をすすめること。
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドデータの分析法 フィールドワークで得られた情報をまとめておくこと。 授業で学んだ内容を踏まえ、データの整理を進めること。
12 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークからエスノグラフィーへ これまでの調査成果を文章としてまとめること。 授業で学んだ内容を踏まえ、調査成果の改稿をすすめること。
13 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの成果発表① これまでの研究成果についてまとめ、発表準備をすること。 授業でのディスカッションを踏まえ、研究内容の修正を行うこと。
14 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの成果発表② これまでの研究成果についてまとめ、発表準備をすること。 授業でのディスカッションを踏まえ、研究内容の修正を行うこと。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——フィールドワークでわかったこと、わからなかったこと これまでの研究成果について最終的なまとめをすること。 授業全体を振り返り、学んだことについて整理すること。

科 目 名	日本研究				科目コード	SC107	
英 文 名	Japan Studies				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶			教員コード	158	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日/2時限		授業形態	講義	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	今日の様々な社会問題へアプローチする土台として、産業活動の側面から日本の地域システムと諸地域の変貌を考える。スライドを用いた講義形式を基本とするが、受講人数によっては実施方法を調整する。						
授業の狙い・ 到達目標	グローバル経済の下におかれた、日本の諸産業の地域展開、大都市圏と地方圏の実情について社会経済地理の視点から理解し、自地域と他地域の比較の上で今日の地域社会問題を考察できる。						
授業内容の レベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。						
授業外学習 (予習・復習)	日頃から新聞に目を通したり、ニュースをよく確認するなどして、社会と経済との関係について見識を深めておくこと。授業後には、不明な用語や概念についてよく調べて、次の授業までに不明点を残さないようにすること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・ その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。						
課題に対する フィードバック	授業内にて随時、フィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%) 平常点は、授業への参加意欲、授業への貢献、グループワークにおける周囲との共同・協調を評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ～社会と経済の地理的關係について～ シラバスを読み、授業内容について確認しておくこと。 授業内容と進め方について、確認しておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	グローバル化のなかの地域と経済 今日のグローバル経済がもたらした光と影について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	日本の人口集積とその動向 日本の人口動態、特に東京圏に関するニュースをあらかじめ調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
4 回	学習内容 予習 復習	農民生産の動向 日本の農民生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	工業生産の動向① 日本の工業配置の形成 日本の工業生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	工業生産の動向② 現代の日本工業 日本の工業生産の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	流通産業の動向 日本の流通産業の歴史や今日の課題について、ニュース等を調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	中間課題 前回までの内容を確認しておくこと。 知識が定着していなかった箇所について、重点的に復習をしておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域① 首都東京の形成 東京の形成の歴史について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域② 首都圏計画の理想と現実 東京の都市計画について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域③ 京浜(東京)工業地帯 東京近辺に存立する工業について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	東京大都市地域④ 現代の東京問題 東京における様々な都市問題について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	周辺地域① 東北地方：「分工場経済」の問題と東日本大震災 東北の文化、経済について調べ、東日本大震災の被災状況について確認しておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	周辺地域② 四国地方：豊かな風土と過疎問題 四国の文化、経済について調べ、合わせて少子高齢化問題について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。
15 回	学習内容 予習 復習	経済地域政策の動向と展望 日本の産業や地域経済がどのように計画されていたか、歴史的経緯について調べておくこと。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深めておくこと。

科 目 名	華道演習				科目コード	SC116	
英 文 名	Practice of Japanese Flour Arrangement				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	木原 邦子		教員コード	259		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針 との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	いけばなの歴史と小原流の基本のかたちを指導する。500年以上の永きにわたる伝統あるいけばなの基本を修得することができる。毎時間実際に各自で花をいけて、基本の修得と美的感覚を養い、人間形成の助言としたい。						
授業の狙い・ 到達目標	季節の移り変わりに自然の様々な変化を感じ、感動できる感受性を育み、そうした自然との触れ合いを通じて豊かな人間形成の基礎を培うことができる。						
授業内容の レベル・関連科目	いけばなをするうえで前提となるお花の扱い方や花材の選び方を学ぶ。そして「たてるかたち」「かたむけるかたち」としたシンプルな型をいけることで、少ない花材数でも美しくいけられる技術が身に付く。なお、学ぶ知識や技術は、小原流いけばな全体の基礎となる。						
授業外学習 (予習・復習)	定められた「かたち」の中で「かたちの特徴を理解し、当日の花材をどのような形にどこへ挿せばよいか基本に忠実にいける。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし						
参考書・ その他教材	小原宏貴『小原流花型カード』一般財団法人 小原流事業部 花材代が授業1回につき400円かかる(試験日の花材代も含む)						
課題に対する フィードバック	特になし						
成績評価方法	実技試験70%、授業への貢献度30%で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	当日の花材と真摯に向き合い花と語ろう。花材により「いけるかたち」の順が変わる場合がある。						
科目に関連した 教員の実務経験	千葉県茶華道協会主催の華道展に出品。						
担当教員への 連絡方法	参考書に連絡先を記入している。						

授業スケジュール

華道演習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスを読んでおくこと。 授業内容を振り返ること。
2 回	学習内容 予習 復習	華道の歴史、伝統文化いけばなの歴史を講義する。実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 授業内容を振り返ること。当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	小原流創始、初代から5世までの歴代家元について講義する。実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	花形全般について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	花材取合せについて、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	水揚げについて、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開「ならぶかたち」について、講義する。花意匠のいけ方について反復練習を行う。 参考書を読んでおくこと。実技指導も行う。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ、本演習のまとめと復習を行う。希望のかたちの実技指導も行う。 今まで学習した内容について、総復習をしてくる。 演習を踏まえ、改めて総復習をする。
15 回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整日。希望のかたちの実技指導も行う。 実技試験に向けて、どの形でいけるか考えておくこと。 自分で花を買って、花意匠で学んだ3つのかたちをいけてみる。

科目名	茶道演習			科目コード	SC117	
英文名	Practice of Tea Ceremony			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	稲田 環菜		教員コード	266	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	茶道に関する基礎知識を学び、演習を通じて実技(平点前)を習得する講義である。講義を通して豊かな人間性を養い、四季を通じた日本文化、おもてなしの作法、社会人になってからも使える教養とコミュニケーション力を身につける。ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)とチームビルディングに対する理解も深めることを推進する。					
授業の狙い・到達目標	世界で高い評価を得ている文化のひとつに禅の教えがあり、茶道の美意識の根底には、この禅の思想がある。受講者には本授業を通して、日本文化と茶道の教え、そこに関わる四季の美しさを理解し、日々の出来事や周囲の人への感謝の気持ちを育むことができる。					
授業内容のレベル・関連科目	初歩の茶道を通して受講生の人間性を高め、将来の人格形成に役立つ授業とする。					
授業外学習(予習・復習)	毎回授業後は簡単な感想文を提出する。次回の稽古日までに、前回までの復習と次回の予習を行う。				授業外学習に必要な時間	各回3時間、 合計45時間
使用教科書	裏千家今日庵監修 「はじめての茶道」 一般社団法人 今日庵 裏千家今日庵監修 「裏千家茶道」 一般社団法人 今日庵					
参考書・その他教材	*その他の資料は都度配布する。 お菓子代が授業1回につき200円かかる(試験日のお菓子代もかかる)。 その他、実費がかかる場合がある。					
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。 また授業の最後に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(40%)、実技の到達度(60%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	学生には茶道を通じて自己内省を深めるとともに、他者への感謝と思いやりの気持ちを育んでいただきたい。社会情勢に関心を持ち、茶道を通じておもてなしにまつわる作法と心構え、周囲と協力・協働し、よりよいチームを築いていくことの大切さを学んでいただく。					
科目に関連した教員の実務経験	裏千家茶道講師。学生時代より茶道を学び、約30年の経験を持つ。また企業人事のコンサルティング(採用・育成)に関わる豊富な実績を有し、茶道を取り入れたワークショップ・研修を通じてダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)の推進、グローバル人材育成に取り組む。					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to: inada@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション・茶道って何だろう？～講演後には茶室にて抹茶を楽しむ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
2 回	学習内容 予習 復習	「和敬静寂」の教え・千利休「四規七則」を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
3 回	学習内容 予習 復習	茶道の型と形・お辞儀の仕方、歩き方、座り方、抹茶や菓子の頂き方を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
4 回	学習内容 予習 復習	割稽古①・帛紗捌き、棗・茶杓の清め方、茶筌通しを学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
5 回	学習内容 予習 復習	割稽古②・茶巾のたたみ方、茶碗の清め方、柄杓の扱い方を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
6 回	学習内容 予習 復習	水屋心得から学ぶ・始めの準備と後始末、人生には整理整頓が大切である テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
7 回	学習内容 予習 復習	風炉の運び薄茶点前①・亭主の心得・役割を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
8 回	学習内容 予習 復習	風炉の運び薄茶点前②・半東の心得・役割を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
9 回	学習内容 予習 復習	風炉の運び薄茶点前③・客の心得・役割を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
10 回	学習内容 予習 復習	応用道具の楽しみ方・扇子、茶入、茶杓、花入、蓋置、香合など、茶道にまつわる様々な道具を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
11 回	学習内容 予習 復習	和服の所作・和服の着方、畳み方、ほか和服着装時の所作を学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
12 回	学習内容 予習 復習	四季の花摘み・「花寄せ」体験から日本の四季を感じる喜びを感じる テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
13 回	学習内容 予習 復習	マナーは何故必要か？・人との交流、特に国際交流にはマナーが大切であることを学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
14 回	学習内容 予習 復習	稽古茶会・茶会とは皆で仲良く菓子を食べて抹茶を頂きながら楽しく過ごすこと テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
15 回	学習内容 予習 復習	生徒が主催する茶会の開催・・・「学長先生を招く感謝の茶会」 テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。